

細かいところが勝敗を分ける 董事長の知恵に満ちた人生

時の過ぎるのは速いものです。去年の誕生日にこの会社に入社してから、気がつけばもう今年の誕生日。忙しかった365日、ゆっくり振り返ってみると多くの人や事に対して真剣に向かい合っていないことに気がきます。これらの中には心に残るものもいくつもあります。

「細かなところが勝敗を分ける」。これはわたしがこの一年間で最も感じたことです。ひとつの小さなことをきちんとやっていたために顧客から苦情や返品が来たり、さらには顧客の生命を脅かす事態が起こったり。これらはすべて細かなことでも徹底してやるのが習慣化されているかどうかの問題です。

「朝4時のジョギングに高級管理職の日本見学」

「黄山見物に麻城理工学院での講演」

「董事長コンサートに全力で当たった苗苗さんの事件」

「作業員に対する海での水泳教室に朝4時の事務所での盆栽」

どんな言葉をもってしても伝えられないもの — 細かなものがあります。

泳げない作業員を海に連れて行って手取り足取り水泳を教える七十過ぎの董事長がどこにいるでしょう。

自らの手を汚して事務所の盆栽や土を整える七十過ぎの董事長がどこにいるでしょう。

4時間も働いてわたしたちのために床拭きや机の整理をしてくれる七十過ぎの董事長がどこにいるでしょう。

董事長は成功した企業家であるだけでなく、人としても模範となる知恵を持った成功者です。

中国人として世界ではじめて外国で企業管理の博士号を取得した陳定国さんが董事長に「智慧、功德、成就（知恵、善行、達成）」という言葉を送りましたが、これには董事長の人生哲学が最もよく表れています。また、董事長は一家の長という意味でみんなから「爺爺（親しみと尊敬を込めて年長者を呼ぶ言葉）」と呼ばれます。それに樹齢百年のイチヨウや千年のサルズベリ、イエスキリストの12人の弟子に見立てた12本のヒマラヤマツ、桜や玉蘭、その中に点在する彫刻の数々。これらによって工場を公園のように美化した董事長は芸術家であるともいえます。

中国では俗に「女は嫁ぎ先を、男は選ぶ仕事を間違えるな」といわれますが、わたしはさらに指導者を間違えないことも大切だと思います。そういう意味では「智慧、功德、成就」を備えた董事長は見習うべき人物です。他にはない企業文化と経営理念、感謝に報いる心と芸術を見る目。董事長のこうしたところを学んでいけば、いつかそれを自分の習慣とすることができるはずです。

わたしは入社間もないころ、「おはよう」というあいさつも満足にできませんでした。しかし、向上心あふれる職場環境の影響を受けて今では毎朝笑顔で「おはよう」というようになり、いつかそれは習慣となりました。このほかに事務所で大きな声を出さない、食事のときはテーブルに肘をつかないなど、ここで身につけたよい習慣は少なくありません。

董事長はわたしたちにより結果をもたらしてくれています。そして心遣いや家で学ぶことを教えてくれます。「課かしい5年間」がどうして「危険な5年間」になるのか。一見矛盾しているように思われますが、そんなことはありません。なぜなら「千里の堤もアリの穴から崩れる」からです。そうならないためにも、細かなところにまで気を配ってよい習慣を身につけることが大切だと思います。

四月の暖かな陽射し。西北の風は止み、すべてが緑に覆われ、百花咲き乱れる春。こんな素晴らしい環境の下でみんな頑張ります。董事長の知恵の人生に学びながら、確実に一歩ずつよい習慣を身につけていきたいと思います。

上海合璧営業課 陳小春

張家界旅行後記



長谷川夫妻と董事長が記念撮影

途中で人は里の原風景を見て、遠い昔を思い出し、懐かしさを感じる一幕もありました。

大自然の中では、人間の個々の感情など針の先ほどの意味も持たないことを、改めて認識できる機会となりました。バスの中では、社歌の合唱、参加者各自が用意した笑い話、ガイドさんの民謡など、和気あいあいとした雰囲気、長時間の移動も苦になりませんでした。

董事長は七十四才の高齢にも関わらず、その鍛えられた健脚で常に皆の先頭を歩き、歩を止めた時は人生訓を語りながら周りの景色を楽しむ、この堂々たる姿に十歳も年下の小生は日ごろの運動不足を反省し、只々尊敬の念を抱くばかりでありました。

この研修旅行に参加された十六名の幹部と、私ども夫婦のために同行頂いた魏静霞さんにとっても、大変有意義で得ることの多い五日間になったものと確信した次第であります。

董事長を初めとし、全員の方が私ども夫婦に対し、常に気を配って下さり、その優しさには家内も感激しっぱなしの五日間でありました。帰国の日は、朝六時に招待所を出発でしたが、董事長がわざわざお見送りに出て下さり、最後の最後まで感謝と感動の旅となりました。

末筆となりましたが、今回の旅行にご招待下さった、董事長以下、上海合璧電子電器有限公司の経営幹部の皆様に対し、夫婦相揃いまして、心より感謝とお礼を申し上げます。

上海合璧品管顧問 長谷川 久男





合璧流

不断地思考与行动
诚信规范创新卓越
创造价值共生共荣
感谢感恩回馈社会

出版社：合璧文化基金会
总 编：王迎春、林生富

发 行人：詹其力 编辑指导：陈庆煜、詹杰文
编辑委员：李高燕 印 刷：上海综禾印刷有限公司

2012 / 03
第13期 03月10日发行

感謝の力

「肩が痛くて我慢できない。足も震えている。」「若い、もう一走り!」。米二袋60斤という重さはまだしも、それを背負って200メートルの距離を何往復もするのはさすがに耐えられません。のどもからからです。しかし、他の人はだれも休んでいません。だから、わたしも休むわけにはいきません。二袋を担いでもう一回。運ぶ途中、汗が目に入って刺すような痛みを感じます。味わったことのない人にはわからない痛みです。それに米袋を担いでいると、帽子のひさしが下がって視界が狭くなります。見えるのは前方を行き交う地元老人たちの足だけです。わたしは他人の足をこんなに集中して見たことはありません。さあ、歩こう。子供が両親のあとをついていこう。

わたしは台湾見学で董事長によって慈濟とその力を知りました。そして今回、その慈濟のボランティア活動（宿遷での冬の物資供給）に参加しました。参加する前、わたしは董事長に聞きました。「どうして地元の人でやらないんですか。手間はかかるし、お金もかかる（参加費用は1人1000元）。二日もかけてこんな遠くまで来て、米を担いだり服を届けたり。これらは高いものじゃないし、どう考えてもわかりません」。わたしは台湾ではじめて慈濟を訪れたとき、何も感じませんでした。たぶん見学スケジュールのひとつで、その活動に深く接しなかったからでしょう。その後、董事長が林智慧師匠に上海に招いて講演を行ったときでさえ、特別な感情はありませんでした。所詮講演に過ぎないと思ったからです。しかし、今回この活動に参加してみて、「そうです。やりなさい」という證嚴法師のことばの意味を実感しました。

今回の活動はわたしにふたつのことを教えてくれました。ひとつは「わたしは他人に与えることに、人から与えられることに対する感謝の気持ちは薄い」ということです。董事長はよくこういいます。「わたしは何度か知らない。実際にやってみなければ」。今回もはじめはいやいやの参加でした。はじめてだったし、週末の休みだったし、お金がいったし、他人のためだし……。しかし、決まったことですから行くしかありません。わたしたちは早朝5時40分に出発しました。その前に董事長からしっかりと体験してもらうようにとの電話がありました。ちょっとどくと感じたのが、中にはそれに嫌気を感じた人もいたようです。6時、集合場所に着いたとき、すでに多くの先輩たちが忙しそうにしていました。わたしは口では「何か手伝いましょうか」といながら、心の中では「何をそんなに準備しなくちゃいけないのか」と思っていました。バスに乗ったあと、わたしたちは袋に入った朝食と二日分の果物やおやつを受け取りました。そして前の方からは「足りない人はまだあるから、遠慮せずに」という声が聞こえてきました。

わたしは食べ終わったあとでふと思いました。これを準備した先輩たちも自費での参加です。それなのに、わたしは不満ばかりいって何も手伝いませんでした。それにわたしがつつ余分に食べたら、だれかが食べる分が一つ減るのです。

このあと邱黎美さんが多くの人に対する感謝を述べました。「朝早くからみんなの朝食を準備してくれた陳さんに感謝します。前日の晩からみんなにおにぎりを用意してくれた蘇さんに感謝します。器材を運んでくれた聖傑さんに感謝します……。そうです。こうした人の中からお出た行為は本当に偉大です。これらが集まって大きな力となるのです。それからというもの、みんな自然にお互いが感謝の気持ちを伝えられるようになりました。時にはおもしろくないこともありましたが、それでもお互い感謝の気持ちを表しました。そういえば、董事長も40年におたって貧しい人を援助してきました。40数年、500ヶ月、175千日以上。それは見返りを求めない援助です。時には感謝の気持ちがわからない相手もいたと思います。それでも董事長は援助を続けてきました。わたしは今回の活動が終わったら、自分の心の変化をみんなに伝えたいと思います。そしてみんなにも考えてほしいと思います。自分によって自分の価値が得られるとき、その会社はだれが作ったものなのか。先人の植えた木の下で涼む人たちはどうしたらその木を後の人たちのために残すことができるのか。そう考えると、効率や品質の向上は当然のことです。他にもやることはたくさんあると思います。

もうひとつは「いくら口でいいことをいってもやらなければ意味がない」ということです。物資供給地点の入口ではおかしや振舞ってあり、地元の老人たちが列を作っていました。が、それはわたしたちが米を背負って行く途中にあったので、いつもそこで立ち止まって待ちがなくなるとの配られたらなりません。わたしは米を背負って待ちながら、どうして先におかしやを配ったあとで米を運ばないのかと怒りが湧いてきました。折しも休憩時間にその話が出ました。ところが、白髪交じりの呉さんが汗を拭きながらこういいました。「みんなどう思うだけ、いうだけ、いうだけ、おかしやの場所を動かさうとしないの?」。わたしは恥ずくになりました。きょうわたしたちは働くために来たのです。それなのに……。その結果、わたしたちはおかしやの場所を動かさないことになりました。愚かな考えを戒めるために、毎回そこを通るたびに肩の上に押し掛かる重さを感じながら思い出すのです。「いくら偉そうなることをいっても何もしなければ意味はない。これは自分への戒め。さあ、やってみよう」。

わたしたちは会社でも同じことをしています。董事長はいつも「やりなさい」といいます。経営会議のときでも如何にしてやるかを話し合います。そうです。「やればいい」のです。

今回の活動を通して、他にも多くのことを学びました。わたしたちは明確な組織はなくても、それぞれ責任をもって働きました。仕事から逃げ出すこともなく、アリのよう。そして、晩餐会でも環境保護の考えに基づいて、肉や魚は食べず、ゴミにならない食器を使い、食べ残しをしないようにしました。そしてみんなまで助け合いました。

今回の活動ははじめての参加だったことにくわえて見習いの立場だったので、わたしに意見を発表する機会はありませんでした。しかし、帰りのバスでわたしは団長から会社を代表して意見を求められ、この二日間体験したことを中心に話しました。董事長の経営理念や40年間の慈善人生。董事長に連れられて花蓮の慈濟へ行ったりと林智慧師匠の開示の言葉。董事長の「小言」や自ら進んで董事長の智慧を体験できたこと……。時間が足りなくて、話したいことの細部まで話せませんでした。もしかするとこれらは先輩方にとっての基本的な道理かもしれません。また、ある人にとっては欠けた良心の補償かもしれません。それでもわたしは話したいです。感謝の力とは何か。そしてそれがわたしたちを成長させ、それに報いることで達成感を得るのだと。それとともに董事長がここに導いてくれた真の意味もわかったような気がしました。

董事長、先輩方々に感謝します。

上海合璧慈濟見習生 林生富 經理

利益の創造は企業の經營過程、「價值創造、共生共榮、感謝と恩返し、社會への還元」、これこそわたしたちの最終目標。